



Tokyo, JAPAN

## オレゴン留学日記 (2)

早稲田大学教育学部3年・オレゴン大学へ留学準備中

清沢 健二



Oregon, U.S.A.

### 留学準備

こんにちは。オレゴン留学期ということで前の号から連載させていただいているのですが、僕の出発は9月なのでまだオレゴンに到着していません。ということで、留学に向けてどのように準備しているのか、また日本にいる残り少ない期間をどのように過ごしているかを紹介させていただきたいと思います。

### Academic Skills

今年度の4月から続いていた松本先生の授業で、アメリカの大学で要求されるエッセイの書き方、5パラグラフ・エッセイ(5PE)の書き方を練習してきました。前期の授業では日本語で講義をしていただき、5PEの雛形、そしてエッセイを書いていくための考え方のスキルを学んでいきました。そしてその4ヶ月間の総まとめとして、7月30日から8月3日まで、5日間の夏季集中講座を行いました。

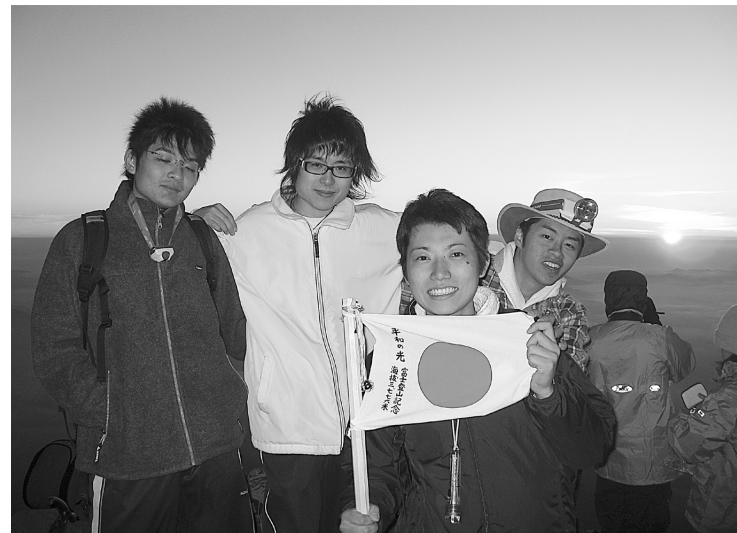
講師は松本先生と、松本先生の長女で University of California, Berkeley の PhD プログラムを履修している松本マズミさんです。マズミさんの国籍は日本にありますが、生活のほとんどをアメリカで過ごしているため、英語はネイティブ・スピーカーです。また、LAにある松本先生の家の中では、英語の使用を一切禁じているらしく、日本語も全く不自由なく話していらっやいました。

夏季集中講座では、前期に習った基礎的なエッセイの書き方を応用し、相手をより効果的に説得するためのエッセイの書き方を学びました。マズミさんは Berkeley で大学の学部生に対して講義をしていることもあって、アメリカの大学生のレベルを踏まえて、私たちのエッセイのレベルを引き上げるような講義でした。私たちが前期に書いた最終課題のエッセイをマズミさんに見ていただいたのですが、そのときに私たちのエッセイは「小学校2年生レベル」であると言われました。

はじめのうちはショックが大きく、4ヶ月間やってきたことが全て否定された絶望と、5日間でどれだけスキルアップできるかすごく不安でした。しかし、5日間マズミさんの授業になんとか食らいついていき、必死になって学んでいった結果、最後のエッセイでは Berkeley の評価基準でも十分に通用するようなエッセイを書き上げた人もいました。特に大変だったのは、求められることに対する適切に答えていくた

めの考え方と、それを論理的に組み立てていく表現の仕方です。マズミさんは英語のネイティブ・スピーカーなので、英語の表現に関しては補助してもらうことが多かったのですが、それ以上に、自分たちでいかに論理的に考えていくかを学ぶことが出来ました。

この授業を通じて、私たちでも、アメリカの大学で十分に通用するようなエッセイを書いていくことができるのだとわかりました。ここで作ることができた自信を生かして、さらに自分でスキルを磨いていき、留学を実りあるものにしていくつもりです。



### 富士登山

留学において、その国の文化や歴史、習慣を学んでいくことは、とても重要なことだと思います。様々な国の人々と付き合っていく上で、価値観を共有して、理解し合っていくために、お互いのバックグラウンドや考え方を知っていくことは、不可欠な要素だからです。

しかし、それ以上に重要なことに、自分の生まれた国の歴史や文化をより深く知っていくということが必要だと考えました。自分の国のことを知らない人は、いくら相手の国の文化や習慣を理解しようとしても、相手にしてくれないと思ったからです。そこで、日本を象徴する山である富士山に登ってきました。

富士山は世界で最も登山客の多い山でもあるため、たくさ